



所 感

子爵 澁澤榮一

私は先づ第一に道路と云ふ意義から解き起して見たいと思ふ。總じて人の踐み行く處を道と云ひます。此道なる文字は或は道德とか人道とか云ふて精神上の用語に使はれて單に一般行路のみに云つては居りませぬ。是は兩者自ら意義相通じて人の歩行する道路も人文の進歩に應じて改善されて行くものであるから其文字が相通することゝ思はれます。故に一國の文明が進む程道德も道路も改良完備して来る。反對に野蠻の國は道德もなく道路も悪い、甚だしきは昨日通つた道路が今日は通ることが出来ぬやうな處もある。蓋し人類以前の動物には道路と云ふものゝないのを見ても、如何に道路は文明と離るべからざるものかと云ふことが證明される。斯く定義すると若しも其國の道路が粗悪で且つ不便であつたならば其の國家は決して文明とは稱されぬと云はねばならぬ。

是に於て現に我邦なども此道路に於ては他の先進國に對して恥づべきことが頗る多いやうに思はれます殊に一般の風習が先づ家屋から先きに造營して後で道路を造るのである。然るに歐米諸國の慣例は道路から先きにして後に家屋を造ると云ふやうであります、帝國現在の都市を通觀すると北海道などは歐米に倣

ふて道を先きに定めて後に市街を區劃し、又昔の都市でも京都は同じ有様であるが他は多く家の方が先に出来て後に道を造つたやうである。詰り道を重んずる道を尊ぶと云ふ風習は歐米諸國に比すれば少いのであります。

我邦の道路が前述の如くであるとすれば我國民は人たる本能を充分に盡して文明の域に達したと云ふことは出来ない、寧ろお恥しいことを恐縮せねばならぬのでありますから、此際國民相共に猛省して道路の改善に努力せねばならぬ。

惟ふに往古我邦の制度は五畿七道と云ふやうに區別して相當の方法を設け其道路を修繕したやうに見えます。但し私は昔の歴史を詳知しませぬが、前に云ふ道路の制は武門武士の出来ぬ前と思ひますから古い歴史にも明瞭に傳へられて居りませぬ。殊に昔の道路と云ふものは單に人馬の歩行丈けを主要とした爲に道幅も狭く坂道も之を切開くと云ふことは尠い。況んや其工事に機械の應用乏しくして實に貧弱極つたものであつた、武門武士の時代即ち封建の世には道路の險なることは自己領域の防備とするやうになつて、其頃の道路は寧ろ不完全な方が必要であつた。徳川幕府時代に於ても、箱根の險の如きは江戸の守りとする位で、所謂一夫之に當れば萬夫も通ずる能はざると云ふやうなことで、今日から觀れば如何にも滑稽であります。此習慣からどうも道路に對する知識が進まない。従つて世人の之に對する注意も乏しいから其議論も少い故に其改良進歩が遅々たることも亦已むを得ないのでありませう。

維新以後に於ては或る種類の人士が大に道路に心配せられ、例の三島通庸氏の如きは栃木縣知事の際に非常に努力せられた。現に今日鹽原温泉に旅行しても、三島氏の道路と云ふことが目前に效果を示して居

る、けれども全體としては道に對する注意が甚だ少い。

明治二十年頃東京市に市區改正の制度を設けられ、引續て斯業に學問知識ある人々が相集つて頻りに講究して居りますけれども、今日に至る迄帝國の首府たる此東京の路面が舊來と格別面目を改めないで雨が降れば田植の出来るやうな状態になり、風が吹けば塵埃が立昇つて歩行することが困難である、現に豊富なる能力と雄大の計畫ある當局者も在任しながら數年を経過するも僅少の部分に着手したと云ふまでにて大袈裟に云ふならば全體は舊の儘であるのは實に歎息の至りであります。

道路改良會の起因は東京市の路面にのみ關係した譯でなく、前に述べ來りたる一般の希望が凝結して遂に各方面の有力なる人士が襟々に盡力せられ老衰せる私杯までも參加して有識の人々と相謀り、餘りと云へば文明に副はない道路であるといふて所謂期せずして時機到り組織されたのである。但し事物には機會と云ふものがあるが恰も好し其頃亞米利加からサミュエル・ヒルと云ふ人が東京に渡來され此人が日本の道路に對して無遠慮に批評し殊更此ヒル氏は道路改修に經驗ある人であるから吾々の參考となる忠告も多くして此道路改良會を設くる爲めには一の刺戟を與へたのであります。而して其設立後既に三年の歲月を経まして諺に云ふ三年経てば三つになるから今少しく成長したいと我も人も思ふけれども事態が却々重大で且つ其範圍が廣いのと殊に此改良會自身が直接經營する譯でなく改良の促進すべきを四方に宣傳し且其方法を考究するのであるから苦心する程に眼の前へに效果の映じないことも亦已むを得ない次第であるけれども本會の微衷は決して社會に發現せぬものではない。現に東京市に對しても種々なる意見を提供し其實施に付ても相當なる力を添へて居る。又單に東京のみでなく全國の道路に對して事實の改良を努むる爲め

今回各府縣下に本會の支部を設け從來刊行し來れる會誌を更に擴大修裝して各國の道路改良に關する經營方法若しくは經濟上技術上のことまでも詳細に記載して能く之を一般に知らせるやうにして更に斯業の知識を進めるに就ては國內の事柄ばかりでなく外國の事例に依つて其善法良制を考究するのは即ち實物教訓であるから或は學術に據り又は事實に徴し以て讀む人をして完全の知識を得しめると云ふやうにしたならば、將來我邦の道路の完備を速進することが出来るであらうと思ふのであります。